

「夢をかなえる“じゃこ天”販売！」
農林水産大臣賞受賞

上灘漁協女性部



▲ 3月27日、双海基幹集落センターで行われた大臣賞受賞祝賀会。女性部の皆さんと市長。

3月8・9日、東京都で「第15回全国青年・女性漁業者交流大会」が開催されました。
この大会に、愛媛県代表として、上灘漁業協同組合女性部長の松本洋子さんが参加しました。松本さんは、『夢をかなえる“じゃこ天”販売』と題し、ふたみシーサイド公園の名

物「じゃこ天」といわれるまでのいきさつや思いを発表し、農林水産大臣賞の栄冠に輝きました。

雑魚の活用

底引き網といわれる漁をする、タイやヒラメなどの高級魚のほかに、市場で取り引きされない雑魚も一緒に揚げられます。

昭和60年ごろ、この雑魚を何とか活用して特産品にできないかと女性部は活動を始めました。女性部は、愛媛の郷土料理「じゃこ天」に目を付け、自分たちが納得のできる味を研究しました。試行錯誤を重ね、商品は完成しましたが、この当時、常設の販売所はなく、地元のイベントなどで販売するだけでした。

10人からスタートした加工部

平成7年、ふたみシーサイド公園がオープンすることになり、その一角に「じゃこ天」の加工販売施設の計画が持ち上がりました。女性部は「赤字がでたら…」原料の調達「人材」など、いろいろな問題が浮上し、結論がでないまま時は過ぎていきました。

オープンが迫るなか、「ここで一步を踏み出さなければ!」「自分たちで挑戦しよう!」と熱い思いを持った10人で加工部を発足しました。

軌道に乗る

開店すると同時に、揚げた

てのおいしさと地元食材で漁業者がつくるという安心感が受け入れられ、順調に売り上げを伸ばしました。じゃこ天だけではなく、たい飯やたこ焼き、魚丸ごとクッキーなどの販売も行いました。平成11年には、第2加工施設の建設に至りました。
このじゃこ天づくりは、漁業を引退した女性の活動できる場所づくりにもなっています。

地元へ利益還元

「好調なじゃこ天販売は地域の支えがあつてこそ」の思いを胸に活動している加工部は、地元の学校給食にじゃこ天のすり身を卸し、また、子どもたちには魚のさばき方教室などを実施しています。

そのほかにも、じゃこ天づくり体験や漁師料理体験などのグリーン・ツーリズムを行ったり、ボランティア活動として、「じゃこ天一座」を結成し、地元の高齢者などに歌や踊りと笑いを届けています。

現在、上灘漁協女性部長を務める松本洋子さんは、

「じゃこ天加工を始めて15年、周りの大勢の方の協力と素晴らしいリーダーがいたおかげで今があります。これからも、『地元』に愛されてこそ『じゃこ天』、地域とともに歩む活動を展開したい。」と笑顔で話していただきました。